

学校ビオトープの製作と利用

神戸市立鹿の子台小学校 藤井 昭義

Making and Using of School Biotope

Akiyoshi FUJII

Kanokodai Elementary School

Key Word : School Biotope, Using of Biotope

1. はじめに

学校ビオトープの設置は最近始まったばかりで施工法や利用法に関しては不明な点が多い。学校ビオトープへの誤解や設置の遅延を生ぜしめている所以でもある。

そこで、筆者は、神戸市立鹿の子台小学校における総合ビオトープの施工や利用例を基にして、学校ビオトープの定義、目的、特性、種類、製作・利用・管理上の留意点、年間使用計画、利用法等について研究した。次にその要点を記す。

2. 設計・製作に関して

①利用機会・利用価値を増進するためには、ねらいを明確に持ち、利用価値の高い、多機能タイプのビオトープを造るのが有効である。また、一定以上の規模を持たせたり多様なビオトープを組み合わせたりすることも有効である。小規模では、生態面でも利用面でも制約が多く、児童の関心も薄れがちである。

本校では、メイン、サブ、サテライトのビオトープ20施設を設けた。また、約800平米の観察ゾーン内に設けられたメインビオトープは、水田、水遊び、古代等、8ゾーンに分かれている。

②児童の視線が水面等に近くなるよう、観察しやすいように施工したい。観察デッキ、橋、観察道等を設けることは有効である。

③安全面での配慮も忘れてはならない。水深を深くしすぎないように設計したい。

3. 利用、教材面に関して

①ネットワーク化（生態面）された総合（多機能）ビオトープは、多様な教科で、体験的な利用ができる。総合的な学習に適している。

②ビオトープは、生命とのふれあい・体験学習の単元・領域での利用に適している。また生命とのふれあいを核にして、クロスカリキュラムを構築したり、環境教育や防災教育で横断的・総合的な学習を計画したりすることにも適している。

③学校ビオトープは、意図的に動植物が整備されているため、計画的な利用ができる。継続観察の単元にも適していると言える。

④各教科・領域ごとのビオトープ年間利用計画や教材（指導案、クロスカリキュラムを含む）を整備することで、利用機会が増す。

4. おわりに

学校ビオトープを更に発展させていくには、設備面では、各校が、確かな設計ポリシーを持ち、機能面・規模面も含め、学校ビオトープとしてクオリティーの高い、利用価値・機会の多いものを造っていくことが必要である。学校ビオトープの基準も作成すべきであろう。利用面では、年間利用計画を立て教育課程での位置を明確にし、クロスカリキュラムや横断的・総合的な学習のための教材を含め、多領域でのビオトープの利用をめざした教材の整備を進めていくことが必要である。

なお、この研究の詳細は、「ビオトープの製作と利用」（鹿の子台小発行、約50頁）にまとめられ、関係機関に配付されている。

鹿の子台総合ビオトープ
(共生・ふるさと・夢・安らぎ・体感の広場)

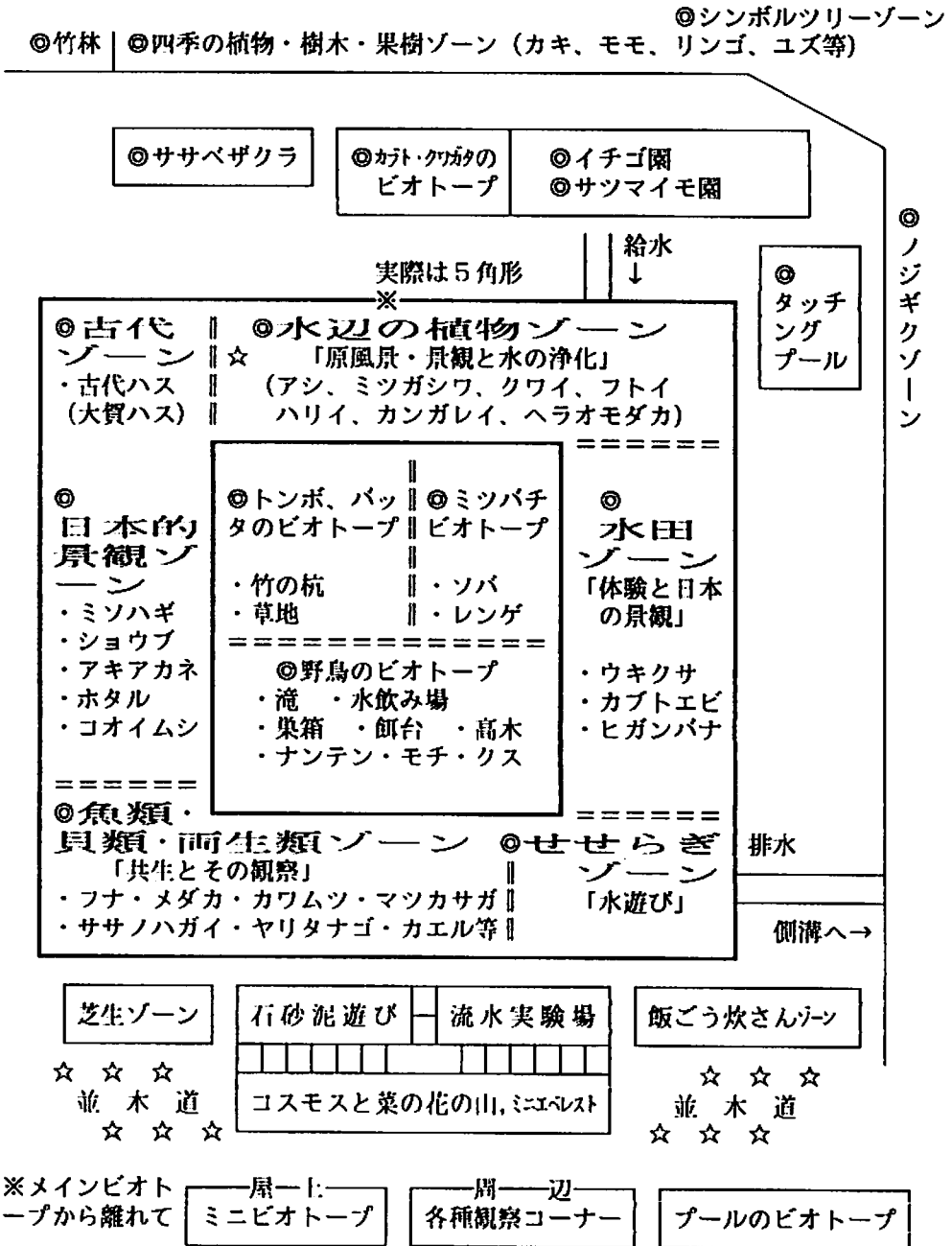


図1 施設配置図

<メインビオトープ・施設> () ※は児童募集ネーミングの愛称

①(鹿の湖) ※

- ・大小2本の樹木
- ・古代ハスゾーン
- ・水辺の植物ゾーン
- ・水田ゾーン
- ・せせらぎゾーン
- ・魚類、両生類ゾーン

<サブビオトープ・施設>

- ②タッチングプール
- ③ノジギク園
- ④シンボルツリーコーナー
- ⑤イチゴ、サツマイモ園
- ⑥四季の植物、樹木、果樹コーナー
- ⑦竹、笹コーナー
- ⑧カブト、クワガタのビオトープ
- ⑨ササベザクラコーナー
- ⑩コスモスと菜の花の山
- ・流水実験場 (ミニエベレスト) ※
- ⑪砂、石、泥遊びコーナー
- ⑫飯ごう炊さんコーナー
- ⑬芝生広場 (緑のじゅうたん) ※と並木道

<サテライトビオトープ・施設>

- ⑭春、秋の七草コーナー、野草コーナー
- ⑮コスモス、ヒマワリの道
- ⑯屋上ミニビオトープ
- ⑰展示コーナー
- ⑱オリエンテーションコーナー
- ⑲プールのビオトープ (トンボフロート)
- ⑳アジサイ、ハーブ園

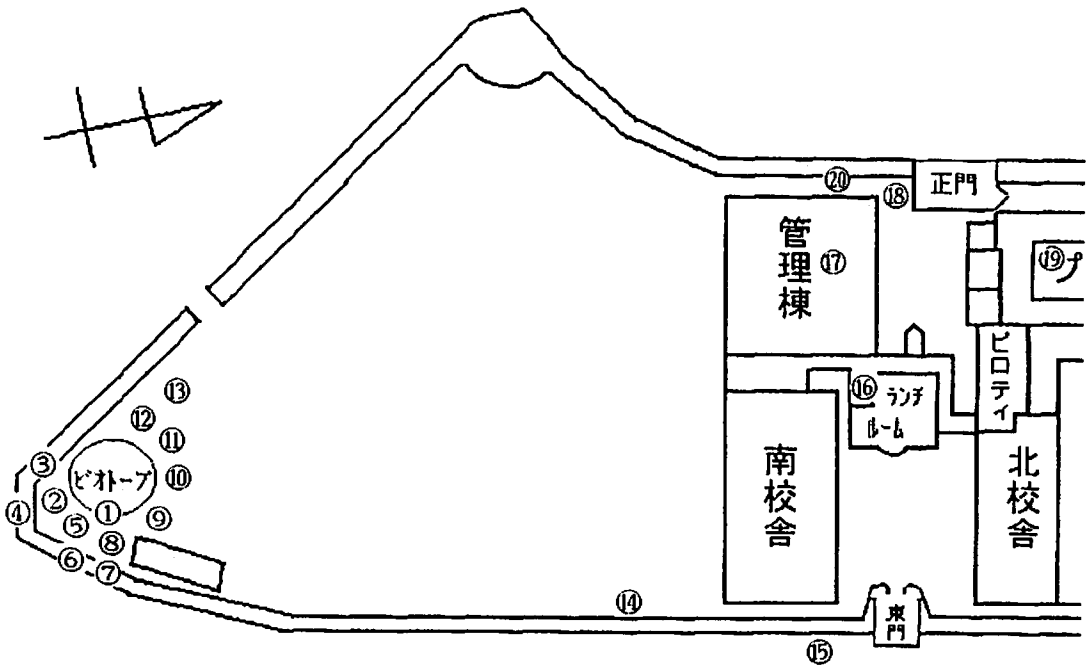


図2 メインビオトープ「鹿の子」概略図